

令和 5 年度 第 1 回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和 5 年 9 月 26 日（火） 15:05～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
辻内 敬子（女性鍼灸師フォーラム 代表）
寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）
野村 森太郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役社長、本校校友会 会長）
前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
松田 博公（日本伝統鍼灸学科会 顧問）

学校 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）

事務局 木村 元（事務部次長）
小浜 悠樹 相馬 しのぶ 伊藤 真紀 楠本 剛浩
兼子 啓太郎（議事録）

以上 18 名

【欠席】 なし

【議題】

- (1) 前回いただいたご意見に対するフィードバック（ビジョン 2030）
- (2) 柔道整復師・鍼灸師のマーケット拡大策について
- (3) 学校経営重要指標の今年度着地見込みについて ※資料の事前共有と質問対応のみ

(1) 前回いただいたご意見に対するフィードバック（ビジョン 2030）

前回の委員会でのいただいた意見に対して以下 2 点のフィードバックを行った。

意見① 行動指針に近い。「学校はどうありたいか」をビジョンとして記載するべき。

⇒「未来のエキスパートたちと、共に学び共に挑戦し続ける」状態にすることをビジョンとする。

意見② ビジョンや society5.0 を、学生にも提示するべき。

⇒society5.0 を視聴し、「AI が普及する中でも柔道整復師としてできること」をグループで考え発表してもらった。（柔整昼 1 年）

(2) 柔道整復師・鍼灸師のマーケット拡大策について

1. マーケットサイズ

文部科学省が実施する学校基本調査のデータをもとに、直近 10 年間の入学定員・入学者数の変化について報告を行った。

柔道整復師

- 入学定員：直近 10 年間で 2,250 名減少。
(2012 年：7,197 名→2022 年：4,947 名)
→定員 60 名の学校 37.5 校分が消失した計算になる。
- 入学者数：10 年前の 62%まで減少。
(2012 年：6,042 名→2022 年：3,761 名)

はり・きゅう・あんま

- 入学定員：直近 10 年間で 1,554 名減少。
(2012 年：6,330 名→2022 年：4,776 名)
→定員 60 名の学校 25.9 校分が消失した計算になる。
- 入学者数：10 年前の 83%まで減少。
(2012 年：4,302 名→2022 年：3,570 名)

2. 本校の入学者数の推移

直近 3 年間の状況が報告された。

3. 本校の募集活動の現状

両学科ともに”魅力づくり”が最も重要な課題であることが報告された。

4. 柔道整復師・鍼灸師のマーケット拡大策（意見交換）

柔道整復師・鍼灸師の新たな活躍のフィールド、「〇〇×柔整」「〇〇×鍼灸」といった新たなアプローチ先について委員に意見を求めた。

【委員からの意見】

- ・実技の中で**エコ**を取り入れる
鍼灸師が最も気を付けるべき医療事故の一つである「気胸」を防ぐ。
深さ・位置が見えるため、安全に刺鍼することができる。
- ・**登録販売者** × 鍼灸
気血水を重要視したアドバイスにより、患者との接し方の深さに違いが出る。
- ・**クリニック併設の鍼灸院**（ドクターと水平関係で連携できる）
※個人のパワーによるところが大きいので、業界として取り組んでいく部分には課題がある
- ・従来あまり進出できていなかった分野（**e スポーツ** 等）を深掘り、業界としてバックアップしていく。
- ・医療としての側面を強めていく（学会等に参加してエビデンスを身に付けていく）
- ・学生の中に伝統鍼灸（歴史の背景なども含めて）を学ぶ
- ・**AI** × 伝統鍼灸

AIを用いることによって数値化しにくい伝統鍼灸を一般化する

・AT（アスレチックトレーナー）ライセンス併修

・**食物 × 鍼灸** **農業 × 鍼灸** **栄養士 × 鍼灸**

「医食同源」

日常の基本的な食事を整えることによって健康のベースを作っていく。

・外国で日本文化や鍼灸に触れた人（バックパッカー、青年海外協力隊 等）

・東洋医学の持つ「養生」「五行分類」を日常に落とし込んでいくことに感銘を受け、鍼灸師を目指す方が多く存在する（看護師、薬剤師 等）

・**寺（住職） × 東洋医学**（「焙烙灸」など）

・**eスポーツ**

効果を実感してもらう：目の疲れや体のこわばりがだいぶ違う

新しい分野には若い世代の興味をひきやすい

・マーケット＝市場規模

鍼灸市場は 3,000 億円

→5 万店舗鍼灸院があるとすると、年商 600 万（月商 50 万）

治療院の売上げが伸びていくことがマーケットの拡大につながる。

衛生要因として、従業員の給与（**初任給**）UP が業界の健全化には必要。

・ニーズが見えている「**美容鍼灸**」に更なる磨きをかけていく

（無いところを作っていくのは難易度が高い）

・「**自律神経**」がキーワードになってくる

美容であっても、「自律神経から整えてきれいになっていく」

・**整形外科 × 鍼灸**

継続治療のニーズがあるところに鍼灸師を配置する

（PT が担っているところが多い）

・鍼灸・柔整の志が大切である。

現状：身体にお金をかけられる人が受けるもの

伝統医療：誰でもどんな所でも治療が受けられる

・**西洋医学で手が届かないところに活躍の場があるのではないか。**

より専門的な部分を開拓していく

Ex) **障害児、ターミナルケア**

・**リスクリング**

社会的な背景

・AIの活用が進む中で、職業が変化・無くなっていく

・政府がリスクリングに 5 年で 1 兆円を投資すると言われている

・日本人の平均年齢は 50 歳を超えてきている

→健康意識の高まり

アイデア

- 入門・土台となるようなオンライン教育を入学の呼び水にする
 - Step 1 無料で知識を提供（漢方、食養生、セルフケアなど）
 - Step 2 民間資格取得 → もっと学びたい
 - Step 3 入学して国家資格取得
 - ※科目履修を制度化して修得単位を免除できるとより良い
- 鍼灸・柔整を有している方々に向けたリスキリング
 - Ex) ビジネス・経営系のリスキリング科目

(3) 学校経営重要指標の今年度着地見込みについて ※資料の事前共有と質問対応のみ

以上

令和 5 年度 第 1 回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和 5 年 9 月 28 日（木） 15:05～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）

小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）

田村 嘉悠（有限会社ヒーリング・スポット 代表取締役）

高橋 功（株式会社 SEA Global 取締役副社長）

学校 奥田 久幸（校長）

岸本 光正（副校長）

森下 友雄（柔道整復学科 学科長）

伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）

青木 春美（柔道整復学科 副学科長、プロフェッショナル育成マネージャー）

大隅 祐輝（柔道整復学科教員）

天野 陽介（鍼灸学科 学科長）

中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）

事務局 木村 元（事務部次長）

小浜 悠樹 相馬 しのぶ 伊藤 真紀 楠本 剛浩

兼子 啓太郎（議事録）

以上 18 名

【欠席】 委員 宗澤 岳史（株式会社 Assatte 代表取締役）

【議題】

- (1) 前回いただいたご意見に対するフィードバック（ビジョン 2030）
- (2) 柔道整復師・鍼灸師のマーケット拡大策について
- (3) 学校経営重要指標の今年度着地見込みについて ※資料の事前共有と質問対応のみ

(1) 前回いただいたご意見に対するフィードバック（ビジョン 2030）

前回の委員会でいただいた意見に対して以下 2 点のフィードバックを行った。

意見① 行動指針に近い。「学校はどうありたいか」をビジョンとして記載するべき。

⇒「未来のエキスパートたちと、共に学び共に挑戦し続ける」状態にすることをビジョンとする。

意見② ビジョンや society5.0 を、学生にも提示するべき。

⇒society5.0 を視聴し、「AI が普及する中でも柔道整復師としてできること」をグループで考え発表してもらった。（柔整昼 1 年）

(2) 柔道整復師・鍼灸師のマーケット拡大策について

1. マーケットサイズ

文部科学省が実施する学校基本調査のデータをもとに、直近 10 年間の入学定員・

入学者数の変化について報告を行った。

柔道整復師

■入学定員：直近 10 年間で 2,250 名減少。

(2012 年：7,197 名→2022 年：4,947 名)

→定員 60 名の学校 37.5 校分が消失した計算になる。

■入学者数：10 年前の 62%まで減少。

(2012 年：6,042 名→2022 年：3,761 名)

はり・きゅう・あんま

■入学定員：直近 10 年間で 1,554 名減少。

(2012 年：6,330 名→2022 年：4,776 名)

→定員 60 名の学校 25.9 校分が消失した計算になる。

■入学者数：10 年前の 83%まで減少。

(2012 年：4,302 名→2022 年：3,570 名)

2. 本校の入学者数の推移

直近 3 年間の状況が報告された。

3. 本校の募集活動の現状

両学科ともに”魅力づくり”が最も重要な課題であることが報告された。

4. 柔道整復師・鍼灸師のマーケット拡大策（意見交換）

柔道整復師・鍼灸師の新たな活躍のフィールド、「〇〇×柔整」「〇〇×鍼灸」といった新たなアプローチ先について委員に意見を求めた。

【委員からの意見】

・保険診療に加えて**自費診療ができる柔道整復師**

国家試験や養成カリキュラムで定められた保険診療（急性疾患：骨折・脱臼・挫傷・打撲）に加えて、自費診療で食っていけるようなカリキュラム（慢性疾患、神経症状、不定愁訴 など）を取り入れる。

単純にフィールドを拡大するのではなく、**柔道整復師だから出来るアプローチ**を重視するべき。

・社会的に意味のある活躍のフィールドを作り出す

SNS や YouTube では学校紹介だけではなく、学校の先にある柔道整復師の仕事を魅力的にするような発信をしていくべき。

検討レベルの人をこの業界に持ってくるためには、治療家・専門家としての柔道整復師が、社会的に意味のある活躍のフィールドがあることを伝え、心をくすぐることが必要。

・差別化は**国家資格**であるかどうか

美容、スポーツ、ヘルスケアなど、他の職種・資格も活躍している分野で柔道整復師や鍼灸師を差別化するためには、国家資格保持者（身体のこと

かっている)が行う美容、ヘルスケア 等であることにプライドを持つ。

・「痛くなる前に整骨院に行こう」(予防医学)

健康寿命と寿命に 10 数年の差があり、健康であり続けて人生が終われる人の方が少ない。

病気になってから病院に行くことが主であり、健康であり続けるためにどこに行けばよいのかが分からない。

↓

地域医療における予防医療のマーケットは柔道整復師や鍼灸師が担える。

接骨院であれば、ケガをしてから行くというイメージから、ケガをする前から行くところであるというイメージに変えていく。

・スポーツ業界での人材ニーズ

スポーツ庁が開庁し、国策として強化が打ち出されている中で、人材ニーズは増加し続いていくことが見込まれる。

ニーズに合った人材養成をしていくことでマーケット拡大に寄与できる。

ー業界・社会的な背景ー

○ここ数年間で数多くのプロリーグ、プロチーム、プロ選手が誕生

稼げない競技・チーム・選手、**下部組織**が義務付けられている競技(Jリーグ・Bリーグ)ではU18などはメディカルの環境が整いきっていない

○ICTを活用したケガ予防(**リカバリ・コンディショニング**)の意識は進んでおり、人材ニーズはあり続ける

○女子の大会が整ってきており、**女性アスリートのケア**ができるスタッフのニーズも増加している。

○アスリートがやっていることを一般住民に展開することにニーズがある

Ex) アスリート向けに行っていた分析を高齢者のヘルスケアに使用する
→企業やチームが事業として行うケースも増えている

○ジュニア世代の競技人口が減っていく一方でシニア世代の競技人口が増えている(自分に投資をしていくところにニーズがある)

○Jリーグでは、10年前からアジア戦略としてクラブ間の交流(人材の行き来)が進み、アジアのチームでフロントやトップを務める日本人も増えている。今後専門職人材の交流も進んでいくと考えられる。

(3) 学校経営重要指標の今年度着地見込みについて ※資料の事前共有と質問対応のみ

以上

令和 5 年度 第 2 回学校関係者評価委員会（鍼灸学科）議事録

【日時】 令和 6 年 1 月 23 日（火） 15:05～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 武内 潔（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
辻内 敬子（女性鍼灸師フォーラム 代表）
寺裏 誠司（株式会社学び 代表取締役）
野村 森太郎（公益社団法人東京都鍼灸師会 副会長）
藤原 良次（株式会社アールエフ 代表取締役社長、本校校友会 会長）
前田 真也（カリスタ株式会社 代表取締役）
松田 博公（日本伝統鍼灸学科会 顧問）

学校 奥田 久幸（校長）
岸本 光正（副校長）
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）
西野 祐介（鍼灸学科教員）

事務局 中尾 好伸 小浜 悠樹 相馬 しのぶ 伊藤 真紀
兼子 啓太郎（議事録）

以上 19 名

【欠席】 なし

【議題】

学校経営重要指標の着地見込み、及び今年度の取り組みについて

本校における学校経営重要指標（退学除籍率／就職率／定員充足率／国試合格率）の着地見込みと今年度の取り組みについて報告し、質疑応答及び意見交換を行った。

— 質疑応答・意見交換 —

夜間部の定員充足率を向上する施策を中心に意見交換を行った。

・在校生が何に魅力を感じて入学してきているか

実際に夜間部へ入学している学生が魅力を感じている部分に強みがあることから、強みをより訴求していくことが良いのではないかと。

・オンラインを活用した入学前の導入コース

セルフケア・ヘルスケア系の導入コースを設立し、より深く学びたい方が入学して下さるよう、間口や裾野を広げることが良いのではないかと。

・ **独立志向・開業志向のある方への訴求**

- ・ 実際に取り組んでいる開業希望者への支援をさらに訴求していく
- ・ 取り組みの内容をより具体的に見せる
(数字の作り方や保健所のルールなど)
- ・ 独立支援制度を持つ企業や治療院の情報提供を行う

以上

令和 5 年度 第 2 回学校関係者評価委員会（柔道整復学科）議事録

【日時】 令和 6 年 1 月 25 日（木） 15:05～16:00

【場所】 日本医学柔整鍼灸専門学校 ZOOM 開催

【出席】 委員 小林 篤史（株式会社ボディスプラウト 代表取締役）
田村 嘉悠（有限会社ヒーリング・スポット 代表取締役）
高橋 功（株式会社 SEA Global 取締役副社長）
宗澤 岳史（株式会社 Assatte 代表取締役）
学校 岸本 光正（副校長）
森下 友雄（柔道整復学科 学科長）
伊藤 恵里（柔道整復学科 副学科長）
青木 春美（柔道整復学科 副学科長、プロフェッショナル育成マネージャー）
天野 陽介（鍼灸学科 学科長）
中村 幹佑（教務委員長・鍼灸学科教員）
鴨田 佳典（柔道整復学科教員）
野々山 卓敬（柔道整復学科教員）
事務局 中尾 好伸 小浜 悠樹 沢田 秀樹 伊藤 真紀 楠本 剛浩
兼子 啓太郎（議事録）

以上 18 名

【欠席】 委員 加瀬 剛（キネシオ接骨院 院長）

【議題】

学校経営重要指標の着地見込み、及び今年度の取り組みについて

本校における学校経営重要指標（退学除籍率／就職率／定員充足率／国試合格率）の着地見込みと今年度の取り組みについて報告し、質疑応答及び意見交換を行った。

— 質疑応答・意見交換 —

夜間部の定員充足率を向上する施策を中心に意見交換を行った。

・マーケティング力

他校を分析したうえで本校の強みや魅力を分かりやすく訴求すること

・患者が次世代の治療家になる

ケガをした経験が柔道整復師を目指すきっかけになっている。

業界の魅力を感じていただき、背中を押してあげることが自分たちの業界を盛り上げることに繋がることを認識し、業界関係者も常にアンテナを張り、一緒に取り組まなければならない。

・課題や変化に応じた打ち手を講じる

誰（入学者の層）の、どの段階（HP 流入／資料請求／来校）に課題があるの

かを分析し、ログや変化に応じた打ち手を講じる。

・**スポーツ業界のトレンド：マイナープロスポーツ・女性アスリート・アジア**

業界の変化に合わせた打ち手を他校より先手を打って取り組む。

- ・スポーツ業界全体でリーグのプロ化が進み、トレーナーや治療スタッフのニーズが増加。
- ・世界的に女子スポーツの強化が進み、女性スタッフのニーズが増加。
- ・アラブ諸国でスポーツ観戦者の層の変化（女性・家族連れ）

・**大学生をターゲットにする**

社会不安が大きいときは資格取得のニーズが増加することから、社会人だけでなく大学生も一つのターゲットとし、大学生協等の資格の資料が設置してあるところに専門学校が並べるようにアプローチしてみてもどうか。

以上